

[災害統計]

平成27年における車両系荷役運搬機械等による死亡災害の発生状況

平成27年に発生したフォークリフト等の車両系荷役運搬機械等に起因する労働災害による死亡者数は25名で、前年の30名に比べ5名(16.7%)の減少となった。

機械の種類別・業種別の死亡者数は表1のとおりである。

機械の種類別では、フォークリフトに起因するものが24名(96.0%)と圧倒的に多く、残りは不整地運搬車の1名(4.0%)となっている。

業種別でみると、製造業の8名が最も多く、次いで、その他の事業の6名、道路貨物運送業の4名と続き、この3業種で約72%

を占めている。

次に、フォークリフトの事故の型別・業種別の死亡者数は表2のとおりである。

「はさまれ・巻き込まれ」によるものが6名(25%)と最も多く、次いで「墜落・転落」と「転倒」によるものがそれぞれ5名(20.8%)ずつと続いている。また、災害の発生概要を見ても「用途外使用」による事故が見受けられる。

不整地運搬車については、道路貨物運送業において1件発生しており、「はさまれ・巻き込まれ」による事故となっている。

[情報提供：厚生労働省]

表1 車両系荷役運搬機械等の種類別・業種別死亡災害発生状況(平成27年)

(単位：人)

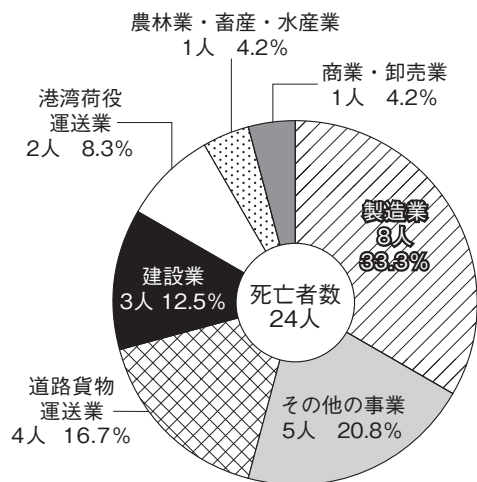
機械の種類	業種									計
	製造業	鉱業	建設業	道路貨物運送業	陸上貨物取扱業	港湾荷役運送業	農林業畜産水産業	商業卸売業	その他の事業	
フォークリフト	8	0	3	4	0	2	1	1	5	24
ショベルローダー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フォークローダー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ストラドルキャリアー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不整地運搬車	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
構内搬送車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	0	3	5	0	2	1	1	5	25

表2 フォークリフトによる事故の型別・業種別死亡災害発生状況（平成27年）

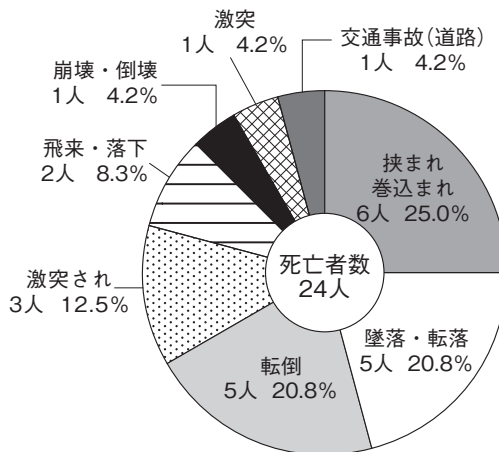
（単位：人）

事故の型	業種									
	製造業	鉱業	建設業	道路貨物 運送業	陸上貨物 取扱業	港湾荷役 運送業	農林業 畜産 水産業	商業 卸売業	その他の 事業	計
墜落・転落	0	0	1	2	0	0	0	0	2	5
転倒	3	0	0	0	0	0	1	0	1	5
激突	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
飛来・落下	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
崩壊・倒壊	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
激突され	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
挟まれ・巻込まれ	2	0	1	1	0	2	0	0	0	6
交通事故（道路）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	8	0	3	4	0	2	1	1	5	24

車両系荷役運搬機械（フォークリフト）



グラフ1：業種別



グラフ2：事故の型別